

合言葉は「さしすせそうじ」 ~ 清掃ふりかえり週間の取組から ~

「さしすせそうじ」

さっとみじたく しずかにだまって
 すみずみまできれいに せっせと時間いっぱい
 そうじをがんばる 「清掃名人」になろう！



1年生も自分たちの力で掃除



今週は、清掃活動を充実させようと、**清掃ふりかえり週間**を設定しました。先生方は、目を光らせて厳しい注意をするのではなく、こまめに分担区を回り、子どもたちとともに清掃に取り組む中で、清掃することの喜びを伝えています。

きれいになると、友達も先生も喜んでくれる。そして、自分の心もきれいになったような気がする。そんな掃除にしたいものです。

お子さんは、家庭では掃除をしていますか。仕事を与えてあげましょう。

「掃除の手順とそれぞれの作業時間」「道具の使い方と片付け方」を、最初は一緒に取り組む中で、丁寧に教えてください。

きれいになったことを十分認め、やり遂げた喜びを感じさせてください。

学校でも家庭でも清掃に取り組むことで、「清掃名人」を育てましょう。

クラブが発足しました (5/23)



酒井袈裟徳先生(工作・木工) 中村 寛先生(歴史探検)
 吉川 弘義先生(理科) 宮本 史子先生(手芸・編み物)
 緑川ソト子先生 久保田智枝子先生 宮沢 久枝先生(生け花)
 今年も**地域講師の先生方**に指導に加わっていただきます。よろしく願いいたします！

地震体験学習を行いました (5/25)



消防署にお願いしていた**地震体験車**の予約を取ることができ、2・3・4年生が疑似体験をしました。大震災の恐ろしさと適切な対応の必要さを、身をもって学習することができました。

心に押し寄せる大津波がある！

1年の中でも最も過ごしやすいころ。腰をすえて、学習をすすめられる時期です。しかし、心に疲れがたまり、登校渋りが出てくるときでもあります。子どもたちは、どんな気持ちで登校しているのでしょうか。

授業がわからない、楽しくない。じっとしていることが苦痛だ。

友達や先生から言われた言葉、態度に冷たさやさみしさを感じる。...

平成22年度の自殺者数は31,560人で、13年連続3万人を越え。若者や子どもの数も増えているそうです。まさしく、心に押し寄せる大津波が、毎年毎年、死者を出しているといえるでしょう。子どももつらいと感じることは大人と同じ。対処方法がわからない分、不安も大きくなります。

聴いてもらうことで自分を認めてほしい

1年生教室の前を通りかかると、「ハイ」「ハイ」「ハイ」と大きな声が聴こえてきます。隣の教室からは、先生の弾くギターに合わせて、元気よく歌う声がします。先生に自分の話や声を聴いてほしいのです。

聴いてもらい、「自分を受けいれてもらう」ことが、満足感や安心感につながります。小さいころほど、相手に目が向かず、自分だけを見てもらいたいと、信頼できる人から離れようとしません。そして、そのときに受けた愛情こそが、やがて相手に注ぐことができる愛情の量になるような気がします。

子どもと一緒にいる時間をできるかぎりつくり、愛情を注ぎましょう。

また、大きくなってからは、この子の悩みを知ったとき、直接解決してあげられなくても、**それでいいんだよと気持ちを受けいれてあげましょう。**それで、心の痛みが和らぐように思います。



相手の話を聴けることは大きな成長！

しだいに、子どもは、聴いてもらうだけでなく、相手の話を聴くことができるようになっていきます。言いたいことをがまんして、相手の気持ちを知ろうとするのですから、「**相手を受けいれてやる**」ことができるようになった大きな成長です。

私たちが授業で友達の名前が出てくる発言を願うのも、相手の思いを大切にしているからです。お互いを認め合う関係が、心をおだやかにしていきます。



家庭でも、「よく聴き」「よく話し」、よい親子関係をつくっていきましょう。